

「平成27年度博士課程教育リーディングプログラム委員会」議事概要

1. 日 時：平成28年2月29日（月）15：30～18：30
2. 場 所：都市センターホテル5階会議室「オリオン」
3. 出席者：（委 員）有信委員、安西委員、猪口委員、内堀委員、太田委員、岡田委員、奥村委員、金子委員、鎌田委員、北川委員、窪田委員、熊谷委員、佐藤委員、新海委員、永山委員、八田委員、濱田委員、林委員、室伏委員、吉野委員、鷺谷委員
（文部科学省）義本審議官、塩見大学振興課長、猪股大学改革推進室長、菊地大学改革推進室大学院係長
（事 務 局）岩佐理事、京藤監事、木村審議役、藤田大学連携課長、吉田大学連携課長代理

4. 議事概要

- (1) (報告事項) POフォローアップ報告書・現地視察報告書について
「委員会の審議内容等の取り扱いについて」（平成23年6月6日博士課程教育リーディングプログラム委員会決定）1. 2) に関する事項につき、非公開。
- (2) 平成24年度採択プログラムの中間評価結果について
「委員会の審議内容等の取り扱いについて」（平成23年6月6日博士課程教育リーディングプログラム委員会決定）1. 1) に関する事項につき、非公開。
- (3) 平成25年度採択プログラムの中間評価について
 - ・平成25年度採択プログラムの中間評価の実施について [資料10]、評価要項 (案) [資料11]、学生アンケート調査 (案) [資料12]、プログラム担当者アンケート調査 (案) [資料13]、中間評価調書様式 (案) [資料14]、中間評価書面評価書 (案) [資料15]、中間評価結果 (様式) (案) [資料16]、中間評価現地調査実施要領・報告書 (案) [資料17]、中間評価ヒアリング実施要領・審査表 (案) [資料18]、平成25年度採択プログラム中間評価日程 (案) [資料19] について、それぞれ事務局より説明があり、質疑応答の後、各資料等の修正について、委員長一任とすることで了承された。主な意見は以下のとおり。
 - 評価項目は、基本的に教育する側の視点となっており、教育を受ける学生側の視点が見られない。実際にはアンケート結果などで学生からの視点も踏まえて評価されているが、評価項目にも明記した方が良いと思われる。
 - 「学位プログラムの確立」が新しい専攻や研究科の立ち上げと同義として受け取られている懸念がある。確かに多くのプログラムにおいては、学生が所属専攻で学位を受け、リーディングプログラムで修了の認定を受ける形になっており、リーディングプログラムが正しい意味での「学位プログラム」とはなっていないが、専門分野に対する深い知識に加え複数の領域のディシプリンを理解させることは本事業の趣旨にかなっている。専攻の新設等システム改革と複数のディシプリンとの両方の観点から評価できるよう、「学位プログラムの確立」に係る評価要項の表現には配慮が必要である。

○アンケート調査結果を中間評価の現地調査の前に大学側に開示できれば、現地調査の際にアンケート結果に基づいた議論ができると思われる。

(4) 採択プログラムに係るフォローアップについて

- ・採択プログラムに係るフォローアップについて、採択プログラムに係るフォローアップについて（改正案）[資料20]と採択プログラムの平成28年度フォローアップ日程（案）[資料21]について、事務局より説明があり、各資料等の修正について、委員長一任とすることです承された。

(5) その他

- ・事業全体に関して意見交換が行われた。主な意見は以下のとおり。

○学生の論文について、専門論文の評価に留まらず、これからの社会がどのようになっているのか、また、なるべきなのかについて社会提言を学生が行った場合は、そうした活動・実績も評価するようにしていくべきと思われる。

○学生がインターンシップに参加した際、その学生が受入先でどのように評価されたのか、インターンシップ先からの評価を蓄積することが必要であると思われる。

○プログラムの補助期間が中盤にさしかかり、これから新しく参加する学生が修了する頃には経済的支援が補助事業として保証されなくなってきていることから、プログラム参加へのインセンティブに影響する懸念がある。なんらかの支援策が望まれる。

- ・次回の委員会は、来年度、部会における中間評価終了後に開催することとした。